

令和7年度 第1回江別市文化財保護委員会会議録（要旨）

日 時	令和7年4月30日（水） 午後3時00分～午後5時00分
場 所	文化財整理室 1階 水洗室
出席委員 （9名）	◎小林孝二、○右代啓視、池田典子、後藤一樹、園部真幸、成田裕之、本吉トキ子 柳瀬由佳、山田伸一
市・事務局 （7名）	教育長、教育部長、教育部次長、郷土資料館長、業務係長、文化財係長、文化財係 主査
傍聴者	なし
議題	（1）令和7年度郷土資料館事業計画について （2）令和6年度下半期に受け入れた寄贈資料について （3）旧岡田倉庫について （4）その他

会議録（要旨）

郷土資料館長	（開始15：00） ただいまから令和7年度第1回江別市文化財保護委員会を開催する。 本日は議題の審議に先立ち、この文化財整理室の施設見学を20分程度行うので、 ご了承願う。
郷土資料館長	続いて、令和7年度第1回文化財保護委員会の開会にあたり教育長からご挨拶申し 上げる。
教育長	本日はお忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。 初めに、委員長、副委員長をはじめ、委員の皆様には、今年度も江別のために、皆 様方のご経験やご知見をお貸しくださるよう、改めてよろしくお願い申し上げます。 本日は、この文化財整理室までお越しいただきお礼申し上げます。この後、事務局職 員のご案内で施設をご見学いただく。 教育委員会としては、広く市民がふるさと郷土に愛着と誇りを育めるよう、歴史的 文化遺産の保存と継承を図るとともに、江別の魅力を学ぶ機会の充実を図るよう努め てまいりたい。 結びに、本日お集まりいただいた委員の皆様が、ますますご健勝でご活躍されるこ とをご祈念申し上げるとともに、今後とも当市の文化財保護や文化行政にお力添えを いただくことを心からお願い申し上げて、開会のご挨拶とする。
郷土資料館長	これから施設見学を行う。事務局職員がご案内する。時間は20分程度を予定して いる。
	（文化財整理室の施設見学）
郷土資料館長	この文化財整理室は、埋蔵文化財などの収蔵と発掘調査における整理作業などを目 的とした施設で、普段は一般公開していないが、去る3月15日と29日に、江別市 民活動センターの主催で市民見学説明会を開催した。 昨年9月には、当館主催の史跡見学ツアー「再発見・江別探訪」でも見学スポット に設定し、ご参加の方々にご覧いただいた。 教育委員会としては、文化財の保存及び活用について市民の理解を深めるため、今 後ともこうした機会を設けてまいりたい。

郷土資料館長	<p>これから、議題に入りたい。 以降は委員長に進行をお願いする。</p>
委員長	<p>それでは次第に沿い、議題1「(1) 令和7年度郷土資料館事業計画」について事務局からご報告願う。</p>
業務係長	<p>郷土資料館業務係所管分の事業計画についてご説明する。</p> <p>まず「ふるさと江別塾～『江別を学ぶ』開催事業」は、市民に江別の歴史への関心や理解を深めてもらうことを目的に、各種講座の開催及び小中学校に対する総合的な学習支援を実施する。令和7年度は小中学生向けに、次の3事業を予定している。</p> <p>「子ども学芸員カレッジ」は、小学4年生から6年生を対象に、毎年5月から9月の期間、9回実施している体験型講座で、土器づくり、市内の史跡見学などを行う。</p> <p>「縄文土器を作ろう！」は、小学4年生から6年生を対象に、テラコッタ粘土を使用して、江別から出土した土器をモチーフに縄文土器を制作する体験型講座である。</p> <p>小中学校の「学習支援事業」は、江別の歴史等に関する授業への支援を行う。主な内容は、社会見学の受け入れや、学芸員、解説員による土器の制作指導、学校へ昔の道具などを持って行き解説する出前授業などである。</p> <p>次に、主に大人の方を対象としている事業についてご説明する。</p> <p>市内の史跡等を見学する「再発見・江別探訪」は6月と9月の2回実施を予定している。6月は26日(木)に当館の協力団体である「歴史を伝える集い」の会員に講師を依頼し、ウォーキングによる史跡見学を行う予定である。9月は公用バスを使用し、当館学芸員の解説で市内史跡や文化財整理室を見学する予定である。</p> <p>続いて「ふるさと歴史講座」は、各分野の専門家を講師に、江別や北海道各地の歴史・文化をテーマとした講演を行う。今年度は令和8年2月21日(土)に開催する予定で、講師及びテーマは検討中である。</p> <p>その他、自治会や各種団体の依頼に応じて当館職員が指定された会場に出向き、講師を務める出前講座の実施を予定している。</p> <p>また、他団体との連携事業として、「江別市郷土資料館友の会」との共催で講演会を開催する予定である。今年は5月31日(土)に、北海道大学名誉教授 小笠原正明さんを講師にお迎えして、「江別屯田分隊長 <small>とちないもとさち</small> 栃内元吉～南部の侍のファミリーヒストリー～」をテーマにご講演いただく他、令和8年3月には郷土史に関する講座を開催する予定である。令和7年度開催予定の講座等の説明は以上である。</p> <p>令和6年度の事業と実績報告についてご報告する。郷土資料館の令和6年度の利用者数は、6,123人で、前年度比で18.2%増加した。</p> <p>また、市民、小中学校の施設見学や出前講座の利用者は、約2,400人であった。</p> <p>続いて、「郷土資料館管理運営経費」についてご説明する。当事業は、郷土資料館、屯田資料館、野幌屯田兵屋の管理運営に要する経費を計上している。予算額は、人件費及び物価の高騰などの影響により、前年度比で151万円増加した。</p> <p>次に「郷土資料館設備更新事業」は、展示室と事務室を結ぶ渡り廊下で発生している雨漏りに対応する屋上防水工事と、正面玄関入口外側の自動ドアの開閉不良に対応する部品交換工事を行うものである。</p> <p>業務係所管の事業の説明は以上である。</p>
文化財係長	<p>文化財係所管の令和7年度事業計画についてご説明する。</p> <p>最初に、「江別市野幌太々神楽伝承会補助金」についてご説明する。</p> <p>「江別市野幌太々神楽伝承会」は、江別市指定無形民俗文化財 野幌太々神楽の伝</p>

承普及に取り組む市民有志によって平成7年に創立され、今年で創立30周年となる。

主な活動は、舞の稽古などの研修活動、江別市内や近郊におけるお祭りやイベント等で舞を披露する普及活動などである。令和7年度は、当会の創立30周年記念事業を計画していることから、事業実施に係る経費を補助する目的で、予算金額も例年より10万円増の40万円を計上した。また、毎年秋に、「野幌の舞」と題した舞の発表会を開催しており、令和7年度は、10月5日（日）に大麻のえぼあホールにて開催する予定である。江別市野幌太々神楽伝承会は、地域の伝統文化を継承普及していくことを目的に活動していることから、社会教育振興事業に取り組む団体に位置付けられ、江別市教育振興補助金交付規則第3条の規定に基づき、補助金を交付している。続いて、「野幌太々神楽保存会補助金」についてご説明する。

「野幌太々神楽保存会」は、野幌太々神楽を奉納する野幌神社の氏子さんによって昭和32年に創立された団体である。

主な活動は、舞の稽古などの研修、野幌神社及び近郊の神社のお祭りでの舞の奉納、舞の稽古指導などを通じた江別市野幌太々神楽伝承会の活動支援などである。

最も重要な行事である野幌神社のお祭りでは、4月27日（日）の春季例祭と8月30日（土）の秋季例大祭宵宮、8月31日（日）の秋季例大祭で舞を奉納する。

野幌太々神楽保存会は、野幌太々神楽の保持団体であることから、江別市指定文化財の保存に取り組む団体と位置付けられ、江別市文化財保護条例第15条の規定に基づき、補助金を交付している。

「埋蔵文化財発掘調査事業」についてご説明する。当事業は、埋蔵文化財包蔵地の保護を目的とした調査を行う。例年は、調査作業員雇用に係る報酬、作業用機材の賃借、調査箇所地面掘削や測量に係る委託料などを必要経費として計上しているが、今年度は発掘調査の予定がないため、遺跡の状況を調べる試掘調査などに要する経費のみ計上した。主な内訳は、地面掘削の委託料や調査用車両の賃借料などである。

埋蔵文化財の保護を目的とした調査の実施に当たっては、事業者や土地所有者等の理解と協力が必要不可欠であることから、広報やホームページなどによって制度等に関する周知を行っている。

また、発掘調査報告書の発行や発見された土器・石器等の遺物の公開などを通じて発掘調査の成果を公表し、当事業に対する市民の理解を深めていただく取り組みも併せて行っている。

最後に「郷土資料館企画展開催事業」についてご説明する。当事業は、常設展示とは異なった視点で江別市や北海道の歴史文化を紹介し、市民の郷土史に対する理解を深めていただくため、テーマに沿った企画展を開催するものである。

令和7年度のテーマについては現在検討中であるが、令和6年度の事業実績についてご報告する。令和6年度は2回企画展を開催した。1回目が「高砂遺跡発掘調査成果展」と題し、令和4年度の発掘調査で発見された黒曜石製の石器や江別式土器、滑石製の丸玉など縄文時代中期から続縄文時代初頭の出土品を公開した。開催期間は、令和6年7月27日から9月22日までの58日間で、690人にご来場いただいた。2回目は、「むかしの衣類展 開拓期から昭和まで」と題し、時代による衣類の変遷をテーマに、明治時代の開拓期の軍服や、戦時中の国民服、戦後のワンピースな

	<p>ど各時代を代表する衣類や服飾に関する道具、資料なども展示した。開催期間は、令和6年12月17日から令和7年2月16日までの62日間で、309人にご来場いただいた。</p> <p>現在、例年、夏休みと冬休みの期間に合わせて企画展を開催しているが、ご来館の皆様により楽しんでいただけるよう、規模や期間などにこだわらない「ミニ企画展」や、寄贈いただいた資料のお披露目を目的とした「新収蔵品」なども随時開催してまいりたい。</p> <p>文化財係所管事業の説明は以上である。</p>
郷土資料館長	<p>郷土資料館所管ではないが、歴史的建造物として、市民に利用されている施設の近況を報告する。</p> <p>最初に、旧町村農場についてご報告する。令和5年度に改修を行い、令和6年6月にリニューアルオープンした。デジタル技術を活用した展示のほか、カフェやキッズスペースが人気である。施設を改修したことにより、町村邸は冬期間も開設しており、令和6年度の来場者は、20,952人だった。</p> <p>令和7年度の予定事業は、旧町村農場ということで、酪農に関連した事業として、バターづくりやヨーグルト教室、チーズセミナーなどを開催するほか、その他の教室・セミナーとして、敷地内の風景を写真に撮るスマホ写真教室や、カフェが設置されていることに関連したコーヒー教室、江別の歴史の関連した歴史セミナーなども予定している。また、多くの市民に来場いただくためのイベントとして、年2回程度、江別の食材や工芸品の販売、フリーマーケットなどを開催する他、子ども向けの事業として、夏休み子ども写生会や人形劇などを予定している。</p> <p>次に、令和4年5月にオープンした林木育種場旧庁舎についてご報告する。令和6年度は民間事業者が運営するカフェに15,450人の利用があった。</p> <p>令和7年度は、市民や大学生を対象としたセミナーやワークショップの開催、入居事業者によるコーヒー講座の開催、また、施設内回廊ギャラリーでの作品展などを予定している。</p> <p>昨年度の市民向けセミナーでは、郷土資料館の解説員が「昭和初期の江別」をテーマに解説したほか、大学生とのワークショップなどでは、この林木育種場で提供される新メニューやドリップコーヒーのパッケージなどが成果として生まれており、今後も関係機関との連携によって、この施設が多くの人に利用されるよう工夫していくとのことである。</p> <p>最後に、歴史的建造物ではないが、陶芸文化の振興に資する施設として市民に利用されているセラミックアートセンターについてご報告する。</p> <p>令和6年度の利用者は、18,111人だった。</p> <p>令和7年度の主な予定事業は、郷土を代表する絵本版画家の手島圭三郎さんの絵本原画展や、何層もの色粘土を重ねて独自の「グラディエーション技法」を駆使して、国内外で高い評価を得た陶芸家 尾形香三夫さんの追悼展のほか、各種美術作品展を開催する予定である。</p> <p>また、センターの特徴を活かしながら、やきもの文化の普及啓発を図るものとして各種陶芸教室・体験を開始するほか、ロビーを活用したコンサートなど、各種イベントも開催する予定である。</p>

	関連施設に関するご報告は以上である。
委員長	ただいまの、郷土資料館、旧町村農場、林木育種場旧庁舎、セラミックアートセンターの令和6年度事業実績及び令和7年度事業計画の報告について、委員の皆様からご質問ご意見は。
委員	近年の郷土資料館事業の状況を見ると、土器作りと野焼きは小中学生対象の「子ども学芸員カレッジ」と「縄文土器を作ろう！」の他、数校の学校で出前授業を行っている程度だが、どうして一般向けの土器作り講座を開催しないのか。これらは郷土資料館のオープン以来、非常に市民に人気があって毎回定員を超えるくらいの申し込みがあるメイン事業だった。テラコッタ粘土を使って作るのは、野焼きができない冬期間に行うとか、土器に親しんでもらうためなどにはいいが、実際に野幌粘土を使って土器を作り、それを乾燥して外で野焼きをする体験は、先史時代の暮らしを考えると非常にわかりやすく有意義な事業であった。
郷土資料館長	現在郷土資料館では、小中学生向けにテラコッタ粘土を使った土器作りを実施しているが、セラミックアートセンターで「ドキドキ！縄文土器作り体験」という講座を、小学生以上大人までを対象に実施している。セラミックアートセンターは、ある程度多くの人数を受け入れられる会場ということから、「焼き物」というテーマと関連づけてやっている。
委員	セラミックは陶芸をテーマとした施設なので、そういった事業もやった方がいいと思うが、郷土資料館には、考古学専門の学芸員を配置している。セラミックの学芸員が指導するのと、郷土資料館の考古専門学芸員が指導するのは全然意味が違う。郷土資料館の存在理由をきちんと周知する上でも、メインとなる「土器作り」のような事業が必要だと思う。 セラミックアートセンターを会場にして、両施設が共同で開催するのはいいが、事業としては、郷土資料館が主導して行うべきではないかと私は思う。
委員長	私も、せっかく郷土資料館には専門の学芸員がいるのだから、セラミックアートセンターと共同でやるというのはいいと思う。 他に、委員の皆さんからご質問ご意見は。
委員	郷土資料館の利用者数が、前年度比で18.2%増加した要因について把握しているか。
業務係長	概算だが、観覧の来館者数が前年度比で200名程度増加した。 小中学校の出前授業や自治会等の依頼を受けて実施する出前講座などの利用者数も前年度に比べ増えており、こういったことが増加した要因である。
委員	3月にこの文化財整理室の見学会を2回実施したが、資料にはこの時の参加者数は加算されていないようだ。見学会の参加人数は何人くらいだったのか。
業務係長	文化財整理室見学会は、江別市民活動センターの主催事業のため、当館の事業参加者数にはカウントしていないが、3月15日が16名、3月29日が15名と記録している。
委員長	他にご質問ご意見は。
委員	郷土資料館ロビー展についての説明は、口頭だけではなく配付資料も作成すべきだと思う。郷土資料館の中では比較的大きな事業なので、きちんと配付資料によって報告すべきである。

	<p>それから、「令和7年度郷土資料館事業計画」全体の資料の作り方が、最初に令和7年度の事業計画について記載されていて、前年の令和6年度の事業実績が後になっている。順番としては、前年度の事業実績について報告して、そのあとに新年度の事業計画について説明する流れで、資料を作った方がわかりやすいと思う。</p>
郷土資料館長	<p>来年度以降は、前年度事業実績と新年度の計画という流れで、セットで資料を作成したい。</p>
委員長	<p>細かいことを言うと、郷土資料館の後に説明があった旧町村農場などの施設については、令和6年度の実績が先に書いてあって、その後に令和7年度の事業計画という順番になっている。構成を統一した方がいいと思う。</p>
郷土資料館長	<p>ご指摘の点も踏まえ、きちんと統一して資料を作成したい。</p>
委員長	<p>他に委員の皆さんから、ご質問ご意見は。</p>
副委員長	<p>今年のロビー展はどのような内容を企画しているか。</p>
文化財係主査	<p>夏季ロビー展については私が担当する予定で、詳細については検討中だが、カメラやワープロ、パソコンといった「機械」をテーマにしたものを考えている。ただカメラなどの場合、ロビーという場所はあまり展示に向いているとはいえないので、見せ方についても工夫したい。</p> <p>冬季ロビー展は若手学芸員に担当させる予定だが、現時点でテーマは未定である。</p>
副委員長	<p>本来であれば、新年度が始まる前に計画はできているべきだと思うが、郷土資料館のロビーだけでやるのではなくて、公民館のロビーなどで巡回展を実施することも検討した方がいいと思う。なぜ、そんなことを言うかということ、セラミックアートセンターなどと比べて利用者数が少ない。だから、郷土資料館がこういった活動をしているかということアピールすれば、市民の方も「行ってみようか」という気持ちになるのではないかなと思う。お金はかからず、マンパワーでできるので、ぜひそういう努力をしていただきたい。</p> <p>それから、企画展の予算が12万1千円と非常に少ない。それで、見せる展示をするのは非常に苦しいと思う。経費的なものも少し考えたほうがいいのではないかな。</p>
郷土資料館長	<p>会場がロビーということで、小ぢんまりしたものになってしまっているので、ご提案のとおりセラミックアートセンターなどを会場にすることも検討してまいりたい。当館の学芸員はセラミックの業務も兼務しているので、両施設で連携を取りながら、より多くの市民にご覧いただけるよう考えてまいりたい。</p> <p>また、予算的な部分はなかなか難しい面もあるが、来場者数などの実績が増えれば、そういったものにも結びついていくと思うので、そういう部分についても頑張っていきたい。</p>
委員長	<p>他に委員の皆さんから、ご質問ご意見は。</p>
委員	<p>令和6年度の郷土資料館事業実績報告の中にある「再発見・江別探訪 バスツアーによる史跡等見学」は、先史時代の史跡をめぐるようだが、近年は江別古墳群や江別チャシなど、毎年同じところを見学しているような気がする。</p> <p>もちろん、先史時代の遺跡も江別の重要な遺跡だから、そこを見学するのは江別の歴史を周知する上で必要だが、それだけが江別の歴史ではなくて、開拓時代のツイシカリや屯田兵、北越殖民法などもっといろいろな歴史がある。せっかくバスで市内史跡をめぐる機会があるのだから、考古関係の遺跡ばかりではなく、ツイシカリや篠津</p>

	<p>屯田兵村など、バスでなければなかなか行けない開拓時代の史跡も含めたバスツアーも計画してほしい。</p>
委員長	<p>私から、旧町村農場、林木育種場旧庁舎についてお伺いしたい。</p> <p>まず、旧町村農場の令和6年度の事業実績。来館者数20,952人には、「イベント等の来場者を含む」と記載されているが、どのようなイベントを実施したのか把握しているか。</p>
郷土資料館長	<p>まず、令和6年度にオープンしたので、オープニングセレモニーを開催した。他に、「mini えべつマルシェ」という食材や工芸品を直接販売するイベントや、「雪造ミニスロープ」というものを作って、子供たちが雪遊びを楽しめる場所を提供するといったイベントなどを実施した。</p> <p>その他は、令和7年度事業計画でご説明した、ヨーグルト作り、バター作り、チーズ作り教室、スマホ写真教室などである。</p>
委員長	<p>令和7年度予定事業に記載されている、「歴史セミナー」について、具体的な内容は把握しているか。</p>
郷土資料館長	<p>具体的な内容については、これから検討するとのことである。</p>
委員長	<p>同じく林木育種場旧庁舎の今年の計画に、「各種セミナー」という項目があるが、これについても具体的な内容はこれから検討ということか。</p>
郷土資料館長	<p>おっしゃるとおり、これから検討するとのことである。</p>
委員長	<p>林木育種場旧庁舎の昨年の来場者数を見ると「カフェ来店者数」のみカウントされていて、「イベント等の来場者数は含まない」と記されている。これは、どのようなイベントを実施したのか。</p>
郷土資料館長	<p>江別市が関係したものについては、市民向けに歴史セミナーを実施しており、これは17名参加した。</p>
委員長	<p>この会議で一番重要な報告は、こういうイベントだと思う。私も頼まれてセミナーの講師を務めた。そのときに初めに担当者に言ったのは、特に林木育種場旧庁舎については、1階部分は今運営事業者が入って使用されているが、2階部分はほぼ活用されていない。それが課題だという話は、教育委員会としても共通認識だったはずである。だから、今後その部分を使っていくという意味でも、こういう連続講座などをやっていた方がいいと担当者の方も言っていたし、私も「やるのであればある程度のスパンで計画を立てないと、続かない」と話した。人事異動で担当者も代わっていく中で、きちんと計画を立てて引き継いでいかないと最後は立ち消え、尻すぼみになってしまうという現実があることを言っておきたい。</p> <p>残念ながらこれからの世の中は、文化事業でもやはり「人数勝負」というところが大きい。国の評価でも、どれだけの人数が集まったとかということが大きいので、細かくてもいいから、なるべくそういうものを入れていくことが重要になってくる。</p> <p>この事業の担当課である生涯学習課の担当者に、こういったことを続けてやっていけるような計画を作って、次の方々に引き継いでいかなければならないという話をした。人事異動で担当者が代わるのは役所の宿命だが、担当者が代わったらそこで切れてしまうということではいけない。</p> <p>それから、この林木育種場旧庁舎は、江別市が申請して国の登録有形文化財にした。つまり、活用して残していかなければならない建物なので、次の補修のときに向けて、</p>

	残すべき根拠をなくしてしまうことだけはしてほしくない。現在の運営事業者との契約が切れた後どうするのかということまでも、考えておかなければならないと思う。
委員長	続いて、議題（２）「令和６年度下半期に郷土資料館で受け入れた寄贈資料」について、事務局から報告願う。
文化財係主査	<p>令和６年度下半期に郷土資料館で受け入れた寄贈資料についてご説明する。</p> <p>下半期は３名の方から資料の寄贈を受けた。</p> <p>最初に、令和６年１０月に高砂町在住の方から、現在の北海道博物館が「北海道開拓記念館」だった時代の常設展示解説書を寄贈いただいた。</p> <p>続いて、同じく１０月に緑町東ご在住の方から、古紙幣、古銭、竿秤を寄贈いただいた。紙幣は昭和の前半期に使用されたもので、古銭は江戸時代から明治時代、大正時代、昭和前半期に使われていたものである。郷土資料館の収蔵資料には、こういった古銭類は少ないので、当館としても貴重な資料である。</p> <p>最後に、令和６年１１月に高砂町在住の方から七段飾りのひな人形を寄贈いただいた。</p> <p>令和６年度下半期に郷土資料館で受け入れた資料についての報告は以上である。</p>
委員長	ただいまの報告について、ご質問ご意見は。
委員	<p>私が前回も話したことに関連するが、今回も七段飾りの雛人形の寄贈を受けた。資料によると、平成元年に三越札幌店で購入したとのことだが、何か特別ないわれがあるような雛人形なのか。</p> <p>前回も話したが、この年代は、皆少し家計に余裕が出てきた時代で、これまでなかなか買えなかった雛人形をどこの家でも買うようになった。その後、子供が独立するときも持って行かなくて家に残ったままで、処分に困って郷土資料館に持ってくるというパターンが多い。</p> <p>だから、既に相当数の雛人形を郷土資料館で収蔵しているわけで、資料の価値判断をした上で受け入れないと、いくら収蔵庫があっても足りなくなってしまうと、私は前回の委員会でも言った。</p> <p>何か特別な由緒のあるものとか、例えば明治、大正期ぐらいに江別のまちの形成に関わったような商家で所有していたものとかというのであれば別だが、はたして平成以降に購入されたものが収蔵するだけの意味があるのかということとはきちんと考えた上で収集すべきだと思う。</p> <p>これは収集方針に関わる問題である。例えば、市民から寄贈の申し出があれば何でも無条件で受け入れるという方針ならそれでもいいが、そうではないと思う。やはり、選別するという行為は当然あってしかるべきだし、その上での基準というものをある程度持っていないかと思う。</p>
委員長	<p>これについては、文化財保護の問題というよりも、博物館の運営に関する問題であると感じる。この文化財保護委員会は、文化財保護について審議する目的で文化財保護法第１９０条の規定に基づき設置されている。</p> <p>これとは別に、博物館法第２３条の規定に基づき、公立博物館には「博物館協議会」を設置することができる。正直な話、この問題も含めて今までの議題を見ていると、文化財保護委員会で審議するよりも、博物館審議会を設置してそちらで審議した方がふさわしいのではないかというものが多様な気がする。</p>

	<p>これは教育委員会全体として考えてもらったほうがいいのではないかと思います。本来、文化財保護委員会の運営を郷土資料館が担当するというよりは、教育委員会全体でこうした問題に対する考えを持って、どういう立場の人が関わっていくべきかということを考える時期に来ているのではないかと。郷土資料館が担当するのは、少し荷が重いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>続いて、議題（３）「旧岡田倉庫について」事務局から報告願う。</p>
文化財係主査	<p>旧岡田倉庫の移築に係る状況については、令和４年度以降、建物を管理する経済部、移設復元工事を担当する建設部による説明を含め随時報告しているが、報告時点において「予定」または「検討中」である部分もあったことから、建物全体のどの部分が現状変更され、最終的にどのような形になるのかということ整理したうえでご報告することは、未だにできていない。</p> <p>そこで教育委員会としては、現状変更申請書の「変更の程度」として記された「近傍地への建物の移設」が最終的にどの場所になったのか、また現状変更許可の条件及び答申書の付帯意見とした「建物の現状復旧の堅持」及び「創建時の姿に近づける復元」ということが履行されているかを審査する目的で、建物の管理担当部署である経済部に対し、移設に関する資料の提出を求めたいと考えている。</p> <p>今後経済部に対し、移設前と移設後でどのような変更が行われたかということを図面上でわかるようまとめてもらう形で資料を求めたい。</p> <p>このような形でまとめておくことによって、以前から委員長が言われているとおり、報告書作成にも活用できると考えている。</p> <p>経済部が提出する資料及び審査の内容については、改めて報告する。</p> <p>説明は以上である。</p>
委員長	<p>委員の皆様から、ご質問ご意見は。</p> <p>旧岡田倉庫は、移設工事終了後の見学会を実施していないので、委員の皆さんは公式には移設後の建物を見ていない。市の指定文化財であるから、本来であれば所有者である経済部の方から「建物を見てください」と言うべきではないか。</p> <p>市の指定文化財を移設し、改修も行うということで、３年前に現状変更申請を行ったが、その時点では、とにかく「現地から移動する」ということしか決まっていなかった。だから私の頭の中では、当然移設後も変更があるだろうから、どういう処理にするかということは別にして、資料の差し替えが必要ではないかという考えがあり、完成したものと移築前の差異が明確になる資料を出してもらうのは当然だと考えていた。</p> <p>それともう一つ。今、文化財係主査からも話があったし、他の委員も触れていたが、こういう工事をやる時には修理報告書を作成することが大前提である。なぜかというと、旧岡田倉庫は市の指定文化財にしたのだから、基本的には未来永劫残していくことになるが、この先、市の担当者も交代して当時の状況を知る人間もいなくなる。これから１０～２０年経ったときに、ただ「修理した」という事実しか残っていなければ、どこをどう変えたのか、どこをどう修理しなければならないのかということがわからなくなってしまう。それだけは避けなければいけない。そのための第一段階として現状変更というものをきちんと整理する必要がある。通常は、修理報告書を作成して、旧岡田倉庫のどこが傷んでいて、どこを修理したのか、修理した箇所の元の形</p>

	<p>はどうだったのかということ、きちんと次世代に受け継がれるようにしておかねばならない。</p> <p>市指定文化財という視点で考えると、本来は実際の建物の現状を見せるべきではないかと思う。許可を受ける立場の経済部の方から、許可を出す立場である教育委員会に対して「見てください、これでいいですか」と言うべきではないのか。</p> <p>実際に建物を見ないと評価のしようがない。</p>
教育部長	<p>委員長のご指摘どおり、旧岡田倉庫の復元工事は3月に完成しており、本来であればこのタイミングで見ていただくのが一番よかったかと考えているが、経済部としては、現在倉庫の保存活用事業を次の段階に進めるため業者と交渉している段階であり、見てもらうのはその後であるという意識がどこかにあったのかもしれない。教育委員会としては、次回の委員会開催前のタイミングで見ていただく機会を設けるか、もしくは次回委員会の際に、例えばコミュニティセンターで会議をやって、併せて現地を見ていただくか、経済部と相談の上検討させていただきたいと考えている。</p>
委員長	<p>私の個人的な意見を言ったが、他の委員の皆さんのお考えはいかがか。</p>
委員	<p>私も委員長と同意見で、見学の機会を設けるべきだと思う。</p>
教育部長	<p>具体的な見学の方法は相談させていただきたいと考えている。</p> <p>皆さんに何度もお集まりいただくのもお手数なので、適切なタイミングを見計らいながら調整させていただきたい。</p>
委員長	<p>私は実際の建物を初めの解体から復元まで見ているが、床暖房とエアコンを設置しており、外観も内部も凄く立派である。これだけお金をかけて改修した市指定文化財は見たことがない。</p> <p>余計なことかもしれないが、これだけのお金をかけるのなら、もっと他の文化財にも使って、もっと残すべきものを残せたのではという思いがある。</p>
委員	<p>前回の保護委員会で、旧岡田邸の改修工事については「結構年数がかかります。」という説明を受けたが、次回の見学会では「旧岡田邸については、どのくらいお金をかけて、どれだけの改修をするのか？」ということも教えていただけると、少し落ち着けるかなと思う。</p>
副委員長	<p>委員の言うとおりでと思うし、さらに旧所在地の周辺も発掘調査などをして、倉庫があった当時の景観を再現できるようにするべきという話をしたが、それすらできていない。</p> <p>だから、そういった点も含めて、報告書をどのようにまとめていくのかということが重要になっていくと思う。</p>
委員	<p>今年度の保護委員会は、何回予定しているか。</p>
郷土資料館長	<p>今年度は、最低2回は開催したい。</p>
教育部長	<p>上期と下期で定例的な報告をするということを決定したが、それ以外に例えば、旧岡田倉庫を見学するための委員会を開催することも含めて、委員長、副委員長に相談させていただきたい。</p>
委員長	<p>他に委員の皆さんから、ご質問ご意見は。</p>
委員	<p>先ほど、副委員長から「現況について、もう少し調査が必要ではないか？」というご意見があった。私も、過去の議事録を読んで「解体工事で木杭が出てきた」という話を知り、率直なところ発掘調査が必要な案件ではないかと感じた。その木杭は現在</p>

	文化財整理室に保管されているとのことだが、解体の際にどのような工事が行われて現況が変更になったのか。私は10日ほど前に、解体復元工事の現場を見に行っただが、外見上はさほど変更されておらず、現状保存されているようにも見えたが、木杭が抜かれているという状況があるので、現状保存されていると言えるのか、また今後工事が行われるとしたら、発掘調査も必要になるのではないかと思いますので、今後実際に工事にかかる場所があるのかということがわかっていれば教えていただきたい。
委員長	移築復元含めて、工事は完了した。建物があつた元の場所からも木杭が出てきた。そちらの工事については、河川工事を担当する開発局の事業として行っており、この条件が、ここにあつたものはすべて埋め戻すというような話だと私は聞かされていて、既に埋め戻されているようだ。この木杭も抜けるものは抜いて保存した。それから、建物を移築した場所からの方が、立派な木杭がたくさん出てきた。それも、一部だけは教育委員会の尽力と工事業者の協力で文化財整理室に保管した。
委員	先ほど説明が不足していたが、移転先の方はもう工事が完了しているのは知っていた。そこで、移転元の方で発掘調査できるほどのものが残っているのか気になっていたところだが、お話を伺うと、移転元についても既にならぬということか。
副委員長	現状では、もう調査ができなくなつてしまつたということである。
委員長	移転元の部分の調査はできないが、その周辺はまだ可能性がある。
副委員長	移築する前に、元の場所にあつた旧岡田倉庫を見学した。その時に、委員長と私も「建物本体は基本的に当初の姿に戻しましょう」という考へでいた。 それでは、本体を含めて旧岡田倉庫の周辺エリアは、当初どのような景観だったのか、どこに何があつたのかということも調査しましょうということ。それは、いわゆる埋蔵文化財には該当しないので、教育委員会や郷土資料館の努力の範囲ではあるが、そこをやってほしいという話をした。ところが、工事の段階でそういう重要なものが出てきたから、取つておいたというだけにとどまつており、そういう大切な部分が頓挫してしまつている。
委員	移築先の木杭があつた位置の点を取つて、少なくとも位置や間隔について報告書に書けるよう記録していると聞いたが。
委員長	木杭の位置だけ工事業者に記録してもらつた。木杭を打つた深さとか、木杭の長さや太さといったデータはほとんど失われてしまつた。 多分あそこから、まだ王子の製紙工場方面に向かつてずっと杭が打たれているのではないかという印象を受けた。そしてこれも印象だが、千歳川から遠い側にある移設先から出てきた杭の方が、川に近い移設元から出てきたものよりも太くて立派で、岡田倉庫が当初あつた場所の基礎下から出てきた杭は割と華奢なものだつた。普通に考えると、川沿いに近い方が地盤は弱いので、立派ながつちりした杭を打つものだろうが、道路側にある杭の方がしっかりしたものを使つている。それこそ正に「埋蔵文化財」と呼んでもいいのではないか。
委員	委員長のおっしゃる通りだと思う。私も議事録を呼んで、江別市にとっては「埋蔵文化財」として扱つてもいいものではないかと思つた。
副委員長	地面の下から出てきた木杭のことか。
委員	おっしゃるとおり、「旧今井家住宅」跡地の下から出てきた木杭のことである。
委員長	私が見た印象では、出てきた木杭は「今井家」の基礎に用いられたものではないよ

	うだ。そうすると何のための杭だったのか。「今井家」は結構古く、明治期までさかのぼるから、その前にそこに何かを建てたとしたら、屯田兵村に関わるものなのか。あの場所が面している1丁目通りは、江別屯田兵村の始まりというべき基線となる道路である。だから不思議である。
副委員長	そここのところから厳密に調査をやっておけば、「何の建物の木杭だったのか」という問題は解決していたかもしれない。そうすると工事がストップして大変な作業になるわけで、今頃は倉庫が復元できていないということになっていただろうが。
委員長	倉庫も復元できていないだろうし、今行っている国の河川工事がストップしていてもおかしくなかったかもしれない。
副委員長	きちんと調べれば、考古学的な遺物が出てくる可能性も無きにしもあらずだと思う。
委員長	余計なことを言うかもしれないが、ある意味では「日本遺産」よりも余程売り込みができる貴重な江別の文化財があったかもしれない。
委員長	「旧岡田倉庫」に関しては、報告があったとおり、現状変更の整理を行うとのことである。永年保存のためにきちんと整理して報告書を作成する。これは教育委員会でやってほしい。建設部にも趣旨を説明して、データを残すよう依頼してあるが、教育委員会ではデータはもらっているか。
文化財係主査	一通りのデータはもらっている。
郷土資料館長	今、委員長がおっしゃったように、この建造物が移築されて、このようになったということが後世に伝わるように、報告書という形で残していきたいと考えているので、ご協力をお願いします。
副委員長	跡地にも、建てられるのなら標柱などがほしい。
郷土資料館長	看板等の設置については、旧岡田倉庫周辺の整備計画の具体的な内容なども確認しながら、経済部等に相談してまいりたい。
委員	あの近くに建っていた「石狩川汽船」という史跡標柱も、河川工事の関係で撤去したと聞いた。あの標柱に代わるものの設置なども、旧岡田倉庫の整備に合わせて検討していただきたい。
委員長	議題（４）「その他」、委員の皆さんからご意見等あればご発言願う。
副委員長	今日、文化財整理室を見学したが、当初いただいた配置図面から、かなり変更になっている。当初は、2階部分に衣類、絵画、民具などの「郷土資料」を収蔵する予定だったはずである。当時私も「空調管理が大変だ」という意見を述べた。土器などの考古資料も放っておくとカビが生えてしまうが、その対応が「窓を開ける」ことしかないというのでは駄目だ。 それから、当初から言っているが、ここはハザードマップに入っている地域なので、「これが完全の姿で置いておくのではない」ことを確認したい。 それともう一つ。これだけ民具資料や考古資料があるので、やはりしっかりした博物館を江別市として新しく作るべきであろうという印象がある。 それと、この文化財整理室をどのように活用するのかということについて、今回説明がなかったが、当初の説明では「見学できるような状況にします」ということだった。だから、ただ資料を収蔵するだけではなく、土器や民具がきちんと見えるような収蔵展示的な要素を取り入れ、見学に来る人のためにきちんと見られるような環境を

	<p>作るべきではないかと思う。</p> <p>それから、江別市文化財保護委員会は、文化財保護に関する問題や郷土資料館の運営に関わる問題などいろいろ扱っている。最初は文化財に関することを扱っていて、後から博物館ができたので、博物館協議会的な案件も全部文化財保護委員会の中でまとめてやるようになったという経緯は知っているし、今までずっとこのような形でやってきたというのは理解しているが、現段階では博物館運営協議会のようなものを作って、文化財保護委員会とは分けて運営した方がいいのではないかと思う。予算や事業計画の内容というのは、博物館運営協議会で議論すればいいし、文化財保護委員会は、文化財をどのようにするのかということに特化して議論する方向で、相対的に整理していただきたい。</p> <p>この件については、委員長も言及されていたが、私も違和感を覚えている。</p>
委員	<p>私もその件について発言しようと思っていた。私は前回の会議で、博物館協議会を作るのが一番いいのだが、条例改正など手続きの面でなかなか難しいので、とりあえず文化財保護委員会をもう少し充実させて、当面の間、博物館協議会的な機能も持たせるべきではないかということをお話したので、今回いろいろ郷土資料館の事業計画や報告などをいただいたのだと思う。それで先ほど今年度は何回開催の予定かということをお聞いて「2回」という答えだったが、やはり四半期に1回ずつはやるべきだと思う。もしできるのであれば、今年は旧岡田倉庫と旧岡田邸の見学の関係で6月くらいに開催し、その後10月くらいに開催して、最低3回くらいは開催する方向で考えてほしい。先ほどから出ている郷土資料館の運営に関する問題と、さらに指定文化財の問題を議論することも考えると、やはり年2回は少ないと思う。</p> <p>そして副委員長がおっしゃったように、やはりこの文化財整理室はあくまでも暫定的なものとして設置されたものだと思う。郷土資料館自体も昭和30年代の建物で、耐震化にも問題があるような部分もあり、狭いなど様々な問題もあるので、新たな施設建設を考える時期に来ていると思う。個々の施設の運用と活用等も併せて、将来的なこともいろいろ検討する機会をもう少し持つべきではないか。そういう意味では、年1、2回の開催では少ないと思うし、できれば、副委員長がおっしゃったように、博物館協議会を別に作り、文化財保護委員会と二本立てで運営するといったことも考えていってほしい。</p>
委員	<p>今年、文化協会の「新春の集い」という会合に出席して、教育長に「博物館をぜひお願いします」とお話しし、市長にも、江別市は「子供の数を増やしていきましょう」という方針の下、子供の教育にすごく力を入れてきているが、そういうところに子供が歴史を学ぶ場所がないのはいかながなものかということで、「博物館をお願いします」とお話しした。博物館ができれば、何もかもというわけにはいかないが、解決することも多いので、子供たちのためにも動いていただけないかなと思う。</p>
副委員長	<p>北海道全体を見ると、江別と同じような現象があちこちで起きている。財政が逼迫していて、歴史文化や博物館を守れないというのは、多くの市町村で見られる問題である。今までこうした問題をないがしろにしてきた結果、空洞化してしまい、いざ何かやろうと思っても何もできない。今、そういう状況が北海道中のあちこちで起きているので、江別市はそうならないように先行して動いてほしい。</p>
委員長	<p>正直、大変失礼な言い方になるかもしれないが、この問題は教育委員会全体で自分</p>

	<p>たちが関わっているのだという、当事者意識を持ってやっていただかないと、本当につぶれてしまうと思う。</p> <p>文化財保護法上は、「地方文化財保護審議会」は地方自治体が設けることになっている。だから、それは教育委員会全体で考えなければならない。</p> <p>私も30年ぐらい委員を務めているが、文化財保護委員会については、郷土資料館に押し付けているという印象を受ける。資料廃棄問題などは、そういった体制が顕在化した結果ではないかという気がする。</p> <p>もっと言うと、この「旧岡田倉庫」の現状変更についても、わざわざ「保護委員会から委員長名の答申書を出せ」と言ってきた。それでいながら、資料廃棄の時は何も言わないという、全く真逆の対応をしている。</p> <p>これは何かと言うと、教育委員会の中で「他人事」になってしまっているのではないか。何か郷土資料館だけが孤立してしまっているような感じがしてならない。</p>
委員長	その他、事務局の方から案件等は。
郷土資料館長	事務局からは、その他の案件等はない。
委員長	<p>それでは、令和7年度第1回江別市文化財保護委員会は、これにて終了する。</p> <p>(終了時間17:00)</p>